

風紋

浜岡砂丘

おいしい♡レシピ

毎日寒いですね。風邪やインフルエンザが流行中です。ウイルスを寄せつけないためにもしっかりと食べて免疫力をアップさせましょう。今回は体が温まる冬の定番レシピをご紹介します。

あつたかロールキャベツ

材料 キャベツ：8〜10枚
ひき肉：200g
玉ねぎ：小1個
卵：1個
パン粉：大さじ2
コンソメ：2個
塩コショウ：少々



作り方 ①キャベツは1枚づつキレイにはがして茹でておく。芯の部分はそぎ切りにしてみじん切りにしておく。
②玉ねぎはみじん切りにして耐熱容器に入れ、ラップをしてレンジで2〜3分加熱する。粗熱がとれたら軽く水気を絞る。
③ポウルにひき肉、①のキャベツの芯、②の玉ねぎ、卵、パン粉を入れてよくこねる。塩コショウで味付けをしたら8〜10等分にする。
④①のキャベツを広げて③のタネを巻いていく。すべて巻いたら、鍋にキャベツの葉先を下にして並べる。水600ccとコンソメを加え、15〜20分煮込む。塩コショウで味をととのえたら完成。

Stop! ザ交通事故in菊川

平成31年1月1日〜12月31日

今年も「Stop! ザ交通事故in菊川」に参加します。参加者全員が無事故・無違反で平成三十一年を終われるように頑張ってもらいたいです。

参加者

植田・加藤・松永
松下光・山下真

社内安全パトロール

一月十一日に安全パトロールを実施しました。工事の完成に向け、現場内が慌ただしくなってきましたが、災害ゼロを心がけて工事が終われるようにして下さい。



寒い時期の健康管理に注意しよう

■作業中の病死

建設業では作業中に労働者が急死する案件が発生しています。ほんの数分前まで同僚と話をし、その後現場で倒れているのを発見されたという案件です。心筋梗塞等が主な原因とされていますが、心筋梗塞は、心臓に血液を供給する血管が動脈硬化により狭くなり、血栓の発生などで血液が流れなくなり、心臓の筋肉が壊死する病気です。さつきまで元気でも、突然に起こり命を奪うこともある恐ろしい病気です。

■寒い時期は要注意

特に寒い時期は、心筋梗塞の発生が倍になると言われており、気温が低いことや、温度差が大きいことが原因となります。

1. 防寒対策

基本的なことですが、寒ければ無理をせず、厚着を

恵方巻き

二月三日は節分です

ね。今年は日曜日なので我が家では恵方巻きを作ろうと思つています。恵方巻きには、商売繁盛や無病息災を願って七福神に因んで、七種の具材を巻きこむと良いそうです。今年の恵方(その年の良いとされる方向で歳徳神という金運や幸せを司る神様がいらっしゃる場所)は、「東北東」だそうです。皆さんの願い事がかないますように...



2月安全努力目標

年度安全標語 (この31日がある事を喜び、安全を高めよう)

- 作業安全**
 - ・現場の整理整頓
 - ・吊り作業時の安全確認
- 交通安全**
 - ・気の焦りによるスピードの出し過ぎに注意
- 環境目標**
 - ・終業時間を合わせ一人残業を減らしましょう

行事記録

(12/27) (1/26)

- 1/27 仕事始めの式・新年安全祈願
- 1/28 シーテック安全衛生協議会新年安全祈願
- 1/29 袋井建設業協会新年の集い・袋井
- 1/30 経営事項審査・袋井

- 1/31 中電不動産安全衛生協議会新年安全祈願
- 2/1 御前崎市商工会新年祝賀会
- 2/2 静岡県警察年頭視閲式・静岡

行事予定

(1/27) (2/26)

- 1/23 御前崎市商工会総務委員会・理事会
- 1/24 かけしん経営者協議会青年部会新年会・掛川
- 1/28 シーテック安全衛生協議会
- 1/29 鳥インフルエンザ防疫対応計画説明会・袋井
- 1/30 静岡銀行新春講演会・掛川
- 1/31 シーテック浜岡協力会新年会

発行 増田組
TEL 0537-861324
FAX 0537-861675
Email masudagumi1@mail.wbs.ne.jp
URL http://www.masudagumi1912.co.jp

したり、首巻きをすること
が有効です。しかし作業の
安全上、動きづらくなるの
も問題なので、最近では薄く
ても保温性が高いインナー
が各種ありますし、ネック
ウォーマーも有効だと思っ
ます。

2. 温度差の防止

一般的な現場であれば、
屋外での作業がほとんどで
るので、温度差は少ないで
すが、建築・設備関係の現
場となると場合によっては
温度差が大きくなる現場も
想定されます。できるだけ、
寒い所と暑い所を行ったり
来たりしないような作業計
画や人員配置を立てるのが
有効です。

3. 健康状態の把握や健康管理

健康診断を定期的に実施
し労働者の健康状態を把握
し、治療させるなどが基本
ですが、毎朝、健康状態を
確認して、体調が悪ければ
作業させないことが大事で
す。また現場単位などで健

康管理に関する教育を行う
ことが健康管理の啓もう活
動につながります。

■一人作業の危険

一人で作業している最中
に発症した場合、倒れてか
ら発見されるまで時間を要
する場合があります。速やか
に対応していれば助かった
のに、発見が遅れて死亡
してしまうことも考えられ
ます。病死に限ったことで
はなく、一人作業での労災
案件が非常に多いです。人
員に余裕が無いこともある
でしょうが、一人作業する
ことで、不安全行動をしや
すくなってしまうたり、事
故が起こった際に発見が遅
れる、原因が分からなくな
るなど、問



題があり
ます。で
きる限り
複数で作
業するこ
とが望ま
しいです。

ホームページアドレス

<http://www.masudagumi1912.co.jp>

カタログパーク

<http://www.hamaoka.or.jp/masuda.html>

平成三十一年一月七日
**新年安全祈願祭。
 仕事始めの式**

増田組と協力会社の方、総勢四十六名で安全祈願・仕事始めの式を行いました。

【新年安全祈願】

高松神社神官様により増田組及び協力会社の一年間の無事故無災害を祈願する神事を執り行いました。

【仕事始めの式】

仕事始めの式では社長より、「昨年は重大な災害や事故もなく一年を過ごせたことは皆様のご支援、ご協力のおかげであり、厚くお礼申し上げます。現場ごとの安全意識が非常に向上してきたと感じています。さて、十月より新しい期が始まっています。



文 末武篤子
 写真 菅原 正

津軽に生まれ暮らすこと五十年近く。今は浜松市に居住している私ですが、この寒い時期になると、雪かきの心配をしない生活に安堵しながらも、一方では故郷の雪景色が懐かしくもなるのです。とりわけ、風のない夜のしんと降る雪と翌朝の白銀の世界には、心が洗われる思いがします。

半世紀以上も前の故郷は、今のような車社会ではなかった為、道路の除雪もいよいよ加減なものでした。降った雪は緩んだり凍ったりの繰り返しで、道路には轍が三本になったり、当然のように歩道スペースはなくなります。家も雪の中に埋もれ、玄関から雪の階段を作り、屋根からの落雪に注意しながら出入りします。

裏庭では降り積もった雪と滑り落ちてくる屋根雪とが堆積し、一階の屋根部分から竹スキーで滑って遊ぶこともできたのです。竹スキーは子供のお小遣いで買えるく

すが、前期は、工事も少なく厳しい一年となりました。が、今期は、工事も計画通りに受注



ができています。協力会社におかれましては更なるご協力をお願いします。三月の年度末に向けて土木・建築ともに大変忙しくなるとは思いますが、各現場とも無事故無災害で完成できるよう協力会社の皆様の更なるご理解とご協力をよろしく願います。会社、社員、協力会社の全員が安全を最優先に考え一致団結していきましょう。」

社長の挨拶の後に、増田会長から挨拶があり、藤原総括安全責任者より一年度の安全努力目標の説明と、新しい年の安全活動への協力をお願いがありました。

年度末に向けて

土木部長 藤原茂伸

早いもので新年を迎えてから一月が過ぎようとしています。

また、平成三十年度も残すとこころ二カ月となりました。また、天皇陛下の譲位により「平成」という元号もあと数カ月で変わります。

昨年の漢字が「災」ということでしたが、まさしくその通りであったと思います。台風二十四号の影響により近年稀にみる長期間の停電を経験し、自然災害の恐ろしさや改めて実感することができました。この経験を活かし、有事の際は即時に対応できるように環境を整えていくよう心がけていきます。

安全作業の基本は作業前の危険予知・作業毎の日常点検が重要です。同じ作業が続くとどうしても気が緩みます。工事故が発生してしまうと指示があるまでの期間が工事停止となります。工期が近い現場が多いと思いますが、今後安全作業に重点をおき工事を完成させましょう。

厳しい冬を過ごすには、とても寒く辛い暮らしであったと想像できます。



津軽塗りの下駄

農家の女性たちは、麻布に厚みをつけ、背負い籠で擦切れる部分を補強し、更に保温にもなるよう麻や芋の糸で一針一針チクチク刺して、現在のような幾何学模様のこぎん刺しを生み出したのです。

そして、各家庭には必ずあると言っても過言ではない、津軽塗りの箸や碗の食器類。どれも丁寧な手仕事から生まれ、日々の生活で使うほどに馴染んでいくのです。

特に育てていくような気持ちにさせてくれるのが、山ぶどうのツル皮で編んだバッグです。私が三十代の頃に、職人さんに作って頂いたセカンドバッグは、はや三十年も経つというのに、色艶に深みが増しています。しつとりとした肌触りで、今も作り手の温もりが伝わってくるのです。あと何年持てるかわかりませんが、娘が受け継ぐことになっているのです。

建築部長 植田幸男

平成三十年度も、余すところ二カ月となりました。年度末に向けて安全作業と品質向上を目標に頑張っております。

最近の建設業を取り巻く環境は年々厳しくなり、人材不足は大きな問題となっています。当社においても技術者の年齢は高くなる傾向にあります。この様な状況の中昨年の四月に二名の高卒新入社員が入社し、もう少して一年となります。毎日の行動は経験もなく技術者としての苦労も多々あると思われるが、先輩社員の指導のもと日々頑張っています。今後は新しい人材が働き甲斐のある職場環境を整えることが大切である。新入社員の成長を、協力業者の皆さんと共に見守っていきます。本年度も無事故無災害で、満足できる年度末を迎えられるよう頑張ります。

皆さんの御指導、御協力のほどよろしくお願いいたします。

火の用心

「火の用心」という言葉が使われ始めたのは、「鬼作左」の異名をとる徳川家康の重臣、本多作左衛門重次による手紙が、その由来とされています。

「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」

その簡潔明瞭さから、手紙の模範として広く知られるこの一節。天正三年（一五七五年）に織田・徳川家と武田家による長篠の合戦の折に、設楽原（現在の愛知県新城市）の陣中から、浜松城内の妻に宛てた手紙とされ、現在判明する限り、日本で初めて「火の用心」という言葉が用いられたものとされています。

冬の時期は、空気が乾燥し火災の発生しやすい時期です。火の取り扱いには、十分注意しましょう。自宅でも就寝前などは火の点検をしましなう。

